

19 《岩窟の聖母》ルイ12世の戦略的関与説

2019

真鍋友範

ルーブル版とロンドン版、2枚の《岩窟の聖母》存在の経緯と、制作順を解く鍵は、仲裁を依頼された《ルイ12世の戦略的関与》(仮説)にあった。

~~~~~

古い埋め込みパズルがここにあったとしよう。始めると、どうしても【不足しているパーツ】があることに気付く。そのパーツは完成には不可欠な部分だ。

そこで、周囲の状況からそこに合うパーツを制作したら、全体がつながり、完成するに至る。今回の解明プロセスはこの不可欠なパーツの再生が必要なのだ。

つまり、その【重要なパーツ】とは以下の【仮説】だ。

【1503年に裁判への仲裁依頼書簡を受け取ったルイ12世は、ただそれを読んだだけで、問題解決への効果的な次の行動には移さなかったのだろうか】、と最初の疑問が生じる。当然、【解決し得る立場にいたルイ12世は、実際に次の行動を起こしたのだろう】。しかし当時の歴史資料が残っていないのだ。

だが、【二枚の《岩窟の聖母》存在の謎は、《一つの仮説》によって解決可能】なのだ。

当時レオナルドの名声はイタリアのみならず、北ヨーロッパ迄広く知られていた。ヨーロッパの多くの権力者たちはその名誉向上の為にレオナルドの作品を手に入れようと考えていた時代だった。

そのような時代背景にあったルイ12世が、ミラノの司令官に対して『レオナルド達に便宜を与えよ』などと、関心薄く、争いの一方の側への関与の書簡のみで放置したとは考えられないのだ。

そこで【仮説】が生まれる。

### 仮説とは

ルイ12世が【レオナルドの弟子で共同契約者のアンブロジーオに依頼して、依頼者側の信心会が納得できるもう一枚の模写を描かせた】という積極的且つ戦略的関与説だ。

既にレオナルドはフランス軍の侵入で1499年にミラノを去っていたが、係争中のオリジナル作品がまだアンブロジーオの手元か聖堂の祭壇部分にあったのだ。つまりレオナルド工房にはオリジナル版を描いた当時の絵の具も残されていた筈なのだ。(中央パネルは聖堂に納められたままであった可能性もあるが、信心会が絵の内容に納得していなかったことから、新たな代替画模写制作の依頼があれば、当然一旦はレオナルド工房に返却したであろうと考えられる。)

この時点でのルイ12世の思惑あるいは戦略的関与を類推すると、こうなる。  
【元の作品に修正を指示して信心会が納得する別作品をつくり、そちらの方を信心会に納入できれば、裁判が収まり円満決着となる筈だ。その折に不要となるレオナルドの第一作を引き取れば、たとえ2枚目の《岩窟の聖母》に関わる描画料をアンブロジーオに支払っても、充分元が取れる。熱望しているレオナルド作品を初めて入手できるまたとない絶好の機会にもなる筈だ】と。

一方では、当時の共同契約者であった画家アンブロジーオは、経済的に困窮していた。共同契約者でかつ兄弟エヴァンジェリスタの残した遺児の育児費用が必要であったし、彼(彼女?)の分け前も含めた1200リラを信心会からまだ受領していなかったのだ。当時のアンブロジーオは仕事を受注したかった筈なのだ。

仮に経済的には未払分に相当する金額をルイ12世から新たな制作費として支払われたならば、アンブロジーオは当面のところ満足できたのだ。

しかも、レオナルドの第一作が手元にあったので、それを模写するだけの仕事の筈であったが、ルイ12世からの内容変更の指示が加わったのだろう。

それは【イエスの位置やその他の人物の配置がよくわかるようにすること】、【もっと明るい色調にすること】など、信心会側の主張も取り入れ、オリジナル作の描画上の不満部分の解消であった筈だ。そうすることで《聖母無原罪御宿り信心会》も納得する新たな作品に生まれ変わると。そうすれば万事都合良

いとルイ12世は考えたのだろう。

アンブロジーオは、兄弟の遺児養育費を必要としていた上、しかも芸術家気質ではなく職人氣質の人物であった。彼はルイ12世から要求されるがまま変更を加えて【新たな代替作であるルーブル版】を、レオナルドがミラノ不在であった1503-06年の時期に弟子達とともに制作したと考えられる。

しかし、師匠のレオナルドと依頼主の《聖母無原罪御宿り信心会》に対し、アンブロジーオが譲渡前の新作品を見せた結果、アンブロジーオが考えもしなかった拒否反応が、双方から起こったと推測できるのだ。

まず、レオナルドには描き直された代替作に納得できなかったに違いない。

なぜならば、レオナルドには『優れた画家とは、人物の外画とその心の内面を描くことの出来る画家である』との画家としての信念があったのだ。

にもかかわらず、恐らくルイ12世の指示で、アンブロジーオが【幼児の洗礼者ヨハネに対して指し示す天使の手】を加筆したことで、画面内に【イエスが二人になっていた】のだ。

何故なら、レオナルドにとって、【聖母からイエスへの庇護を示す手のひら】の下にイエスが居る画像は、マザッチョの《聖アンナと聖母子》から学び伝えたかった【イエスへの庇護を示す必須の身体動作】であり、この伝統的意味付けが存在する以上、イエスの位置は不変でなければならなかったのだ。しかし、その表現を残したまま、もう一人のイエスを指差す天使の手を描き入れていたのだ。

つまり、この絵画内容は、到底カトリック信者から受け入れられない問題作になったのだ。

仮に天使の指差す手が後年に加筆されたのであったとしても、幼児イエスともう一人の幼児の役割が逆になるという意味では、新約聖書の洗礼場面の記述に反し、同様に受け入れられない内容であったのだ。

さらにアンブロジーオが【水辺を表す水平に連なる岩】を画面下方に描き加えたことで、場面の意味が完全に【新約聖書の洗礼場面】に改変されたのだ。



《ルーブル版》

代替作の《ルーブル版》が《キリストの洗礼》シーンをもじった『幼児イエスと洗礼者ヨハネの登場する洗礼シーン』に変更されていたことは、【旧約聖書外典を元にオリジナル作を描いたレオナルドの創作意図】を破壊する内容であったのだ。

この事実は、一方の《聖母無原罪御宿り信心会》にとっても許せない内容なのだ。つまり、依頼した信心会が描いてもらいたい中心人物は、イエスその人ではなく、【無原罪の聖母】の方なのだ。

そうであるのに、代替作《ルーブル版》のような【キリストの洗礼場面】のようになると、もはや【聖母は脇役どころか、この場面に登場する根拠すら無いという、脇役よりも存在理由の薄い人物と変わる】のだ。

【これではレオナルドからも、信心会からも拒否されて当たり前だ。】

結局、ルイ12世の描かせた《代替作のルーブル版》は、お蔵入りとなり、その為に現在ルーブル美術館に収納されているに至ったという次第なのだ。

~~~~~

一方、1506年の裁判で未完成と判定された元の《第一次ロンドン版》に対しては、これ以上加筆する興味を持っていないレオナルドに代わって、ミラノに残っていた画家アンブロジーオが1506-08年に【光輪】を書き加えた。

アンブロジーオが、その時点で少額の200リラの報酬であっても満足しているのは、恐らくルイ12世からの支払いを受けた後であったからであろう。加筆代金の受け取りをレオナルドが承認した証拠の書簡が残っている。



《ロンドン版》

しかし、この1508年の時点では【洗礼者ヨハネを示す皮の衣と十字の杖】は描かれなかった筈だ。

なぜなら、この場面はオリジナルが《旧約聖書外典》に基づいて描かれており、レオナルドが同意していない新約聖書内の洗礼の物語への変更は出来ない理由があるからだ。

残念なのは、レオナルドの死後、オリジナルの《第一次ロンドン版》から加筆修正された《第二次ロンドン版》に対し、【洗礼者ヨハネを示す皮の衣と十字の杖】が17世紀に名称不明な画家によって加筆された¹ことにより、完全にオリジナルとは全く別の内容の《第三次ロンドン版》に変更されたのだった。

この変更は、【新約聖書の洗礼の場面でありながら、洗礼の祝福動作（相手に向かって中指と人差し指を立てる動作）をしているのが幼児イエスの方であるという、カトリック教徒にとっては容認できない真逆のありえない内容の作品】を生む結果となったのだ。当然の流れとして、このような異端内容の祭壇画を持つ《聖母無原罪御宿り信心会》への信者が多くは集まらなかったと推測できる。この絵画を納めていた《聖母無原罪御宿り信心会》の聖堂はその後取り壊されている。

レオナルドの改変された《第三次ロンドン版》はその歴史の流れの中でお蔵入りとなったが、18世紀にスコットランド人に売却され、その後の変遷を経て現在はロンドンのナショナル・ギャラリーにあるのだ。

以上の【仮説】に基づく制作順を整理すると以下の通り。

- | | | |
|---|----------|-----------|
| 1 | 第一次ロンドン版 | 1483-1490 |
| 2 | ルーブル版 | 1503-1506 |
| 3 | 第二次ロンドン版 | 1506-1508 |
| 4 | 第三次ロンドン版 | 17世紀 |

この《ルイ12世の戦略的関与説》は、《岩窟の聖母》が二枚になった理由として最も納得し得る《仮説》なのだ。例えルイ12世が表面に現れなくても、代理人を介して彼が裏から糸を引いていた可能性は大きい。

《岩窟の聖母》に関わる美術史上の既存諸説は、この二枚になった経緯が不明あるいは不可解な解説であるが、今回《納得し得る仮説の設定》という手法からの解明を試みた。この仮説は、同時に従来から不明であった2作品の制作順の決着に繋がる仮説とも連動している。

~~~~~

#### 参考

- ① 写真：2017年ウィキペディア日本版より
- ② 《岩窟の聖母》の歴史的輪郭は、ウィキペディア日本版より
- ③ ナショナル・ギャラリー ロンドン公式ウェブサイト 2017
- ④ 《岩窟の聖母》秘められた表現と新制作順仮説 2017 真鍋友範

---

i : 《レオナルドの秘密》コンスタンティーノ・ドラッツィオ著

スパーリング&クッファー出版社 S.p.A 2014年

上野真弓訳 河出書房新社 東京 2016年